

総合的な学習の時間における小学校防災教育の

内容と特徴

－教科横断的な防災教育の展開に向けて－

河野 崇

I. はじめに

文部科学省は、平成 25 年に、学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開を作成した⁽¹⁾。この資料は、平成 10 年に作成した防災教育のための参考資料『「生きる力」をはぐくむ防災教育の展開』を、新たに学校防災のための参考資料『「生きる力」を育む防災教育の展開』として改訂したものである。

文部科学省は、各学校において、本資料を活用して、児童生徒等の発達の段階や地域の実情に応じた効果的な防災教育を実践してもらうようお願いをしている。

本資料には、次のような記載がある。

学校における防災教育は、災害安全に関する教育と同義であり、減災についての教育の意味も含まれ、安全教育の一環として行われるものである⁽²⁾。学習指導要領では、その総則において、安全に関する指導について規定しており、学校においては、児童生徒等の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行われるよう、関連する教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における教育内容の有機的な関連を図りながら行う必要がある⁽³⁾。

また、次のような記載もある。

防災教育で目指している「災害に適切に対応する能力の基礎を培う」ということは、『「生きる力」を育む』ことと密接に関連している⁽⁴⁾。各学校においては、児童生徒等の発達の段階を考慮して、関連する教科、総合的な学習の時間、特別活動など学校の教育活動全体を通じた防災教育の展開が必要とされている⁽⁵⁾。

そして、文部科学省は、防災教育に関する指導計画の作成に当たっての配慮事項として、次のことを示している。

学習指導要領等における防災教育に関連する指導内容を整理し、課外指導等も含め各教科等の学習を相互に関連付けるなどして、教育活動全体を通じて適切に行えるようにする。例えば、各教科等の知識、思考・判断や態度を習得する学習を、道徳の時間、特別活動の自主的、実践的な学習、総合的な学習の時間の教科等の枠を超えた学習と関連付けたりするなどが考えられる⁽⁶⁾。

つまり、防災教育には、学校の教育活動全体を通じた防災教育の展開が必要とされており、各教科等の指導内容との関連を図り、教科横断的な学習など、教科等の枠を超えた学習を行うことが求められている。

教科等の枠を超えた学習を展開するためには、総合的な学習の時間を上手く活用することが考えられる。総合的な学習の時間の特徴に応じた学習の在り方として、総合的な学習の時間では、横断的・総合的な学習を行うとしている⁽⁷⁾。横断的・総合的な学習を行うというのは、この時間の学習の対象や領域が、特定の教科等に留まらず、横断的・総合的でなければならないことを表している⁽⁸⁾。

また、総合的な学習の時間では、各学校が目標を実現するにふさわしい探究課題を設定することになる⁽⁹⁾。こうした探求課題は、特定の教科等の枠組みの中だけで完結するものではない。

総合的な学習の時間において防災教育をテーマとして取り上げ、総合的な学習の時間を柱の教育活動として学習を展開していきながら、他教科等においても、防災教育に関連した学習を取り上げて学習をしていくことが、教育活動全体を通じた取組として展開しやすく、学習効果を高めていけるのではないだろうか。

本稿では、総合的な学習の時間における小学校防災教育の内容を分析することで、総合的な学習の時間での防災教育の内容を把握し、学年や単元名、指導内容や指導方法の観点から、防災教育の特徴を明らかにしていきたい。そして、本研究で明らかになった知見を基に、他教科等に関連させた教科横断的な防災教育の展開を目指していきたい。

II. 研究の目的

各教育委員会等で作成された防災教育冊子に掲載されている、小学校における総合的な学習の時間に関する記載を収集して分析することで、今現在の小学校で、総合的な学習の時間での防災教育がどのように行われているのかを明らかにし、その内容を把握する。そして、学年、単元名、指導内容、指導方法の観点から、防災教育の特徴を明らかにしていく。

III. 研究の方法

各教育委員会等で作成された防災教育冊子に掲載されている、総合的な学習の時間での防災教育についての記載内容を収集して分析する。収集資料として、47都道府県と政令指定都市が作成した防災教育冊子を検討する。

研究方法として、学年、単元名、指導内容、指導方法の観点から、総合的な学習における防災教育の分析をする。学年と単元名については、それぞれの学年でどのような防災教育が行われているのか、単元名に記載の学習テーマを把握する。指導内容については、具体的な展開例や実践事例から、総合的な学習の時間での防災教育の指導内容の特徴を把握していく。指導方

法については、学習活動ごとの分類や、総合的な学習の時間の特質に応じた学習と防災教育との関連について分析する。

IV. 総合的な学習の時間における防災教育の内容

各教育委員会等で作成された防災教育冊子を収集して分析する。収集資料として、47 都道府県と政令指定都市が作成した防災教育冊子を検討する。収集した結果、北海道、青森県、山梨県、愛知県、岐阜県、大阪府、和歌山県、兵庫県、広島県、山口県で、総合的な学習の時間における防災教育に関する記載が見られた。以下に、それぞれの都道府県ごとの内容を表にしてまとめる。なお、掲載媒体は、防災教育冊子の名称、指導内容は、総合的な学習の時間での指導内容を記載している。

表 1：北海道教育委員会の防災教育冊子の内容

都道府県	北海道教育委員会
掲載媒体	令和 2 年度「1 日防災学校 実践事例～実践的な防災教育の推進～」
指導内容	○避難所設営体験【3・4 年生：総合的な学習の時間】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校が避難所になることを想定し、体育館で段ボールを組み立てる。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2メートル間隔でベッドを配置するなど区画整理を考える。
掲載媒体	防災教育実践事例集
指導内容	○地域や専門家と連携した樽前山の噴火を想定した防災教育 <ul style="list-style-type: none"> ・学校裏の青葉公園や千歳市の自然の恵みについて調べていく中で、「樽前山という火山があり、噴火したことがある」ことを見つけた。 ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」を見学する。 ・校区の地図に、病院・公共施設・公園など避難可能な場所に色を塗って避難場所を確認するなどの災害図上訓練を行う。 ○地域の施設見学や調べ学習、実験を取り入れた授業 単元名「十勝岳と人々とのかかわり（親と子の火山砂防見学会）」 <ul style="list-style-type: none"> ・十勝岳についてどんなことを知っているかな。 ・親と子の火山砂防見学会（十勝岳の噴火について学ぼう、大正泥流について学ぼう、町を守る仕組みについて学ぼう、火山や泥流災害について学ぼう） ・学習したことをまとめよう。 ・もっとくわしく調べよう。

北海道教育委員会では、避難所設営体験、樽前山の噴火を想定した防災教育、親と子の火山砂防見学会などの学習が設定されている⁽¹⁰⁾⁽¹¹⁾。避難所設営体験は、他の都道府県ではほとんど見られない学習内容である。学校が避難所になることを想定して、体育館で段ボールを組み立てて避難所を設営する活動である。また、防災学習センターや火山砂防見学会、災害図上訓練などの学習が行われている。地域にある防災に関する人や物を活用して防災教育を展開している。

表 2：青森県教育委員会の防災教育冊子の内容

都道府県	青森県教育委員会
掲載媒体	平成 24 年 3 月「学校における防災教育指導資料」
指導内容	<p>○雪がい・風水がいマップを作ろう【3・4年生：総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪害の写真と風水害発生時の写真を見て、どこにどんな危険があるか考える。 ・危険箇所だと思われる場所を通学路マップに記入していく。 ・実際に調べにいき、修正を加えてマップを完成させる。 <p>○津波がきたらどうする？～シミュレーション～【5・6年生：総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波発生時の様子（動画）を見る。 ・地震発生から津波が来るまでの資料を見る。 ・自分たちの立場を考えて避難方法を考え、班ごとに話し合い、ワークシートに書き込む。 ・互いに発表し合い、最終的に班の意見をまとめる。

青森県教育委員会では、雪がい・風水がいマップを作ろう、津波がきたときのシミュレーションなどの学習が設定されている⁽¹²⁾。雪がい・風水がいマップを作ろうでは、写真からどこが危険なのかを考えたり、通学路マップに危険箇所を記入したりしていく。津波がきたときのシミュレーションでは、資料を基に、避難方法を考え、班で話し合い、最終的に班の意見をまとめていく。学習展開として、導入、展開、まとめと、学習展開例が示されている。

表 3：山梨県教育委員会の防災教育冊子の内容

都道府県	山梨県教育委員会
掲載媒体	令和 3 年 3 月「山梨県学校防災指針」
指導内容	<p>○学習指導例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の恐ろしさと防災意識の大切さを実感させるとともに、地域や学校で防災に取り組むよさを感じ取り、安全な町づくり、学校づくりに取り組む。 ・地域や学校の一員として、災害に備えた安全な町づくり、学校づくりにかかわろうと

	<p>する活動や取り組みを行う。</p> <p>○指導案例：小中学校 題材：「災害から考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災、阪神淡路大震災、関東東北豪雨（鬼怒川決壊）、御嶽山噴火、雲仙普賢岳噴火、ハワイ噴火などの映像から、突然おそってくる災害について考える。 ・ 各災害に対する自らが疑問と考えた点について課題を設定。 ・ 設定した課題に対する情報収集。 ・ 被災した方による災害講演会。討議会。 ・ 収集した情報を元に、課題に対する情報を精査し、まとめる。 ・ 各グループによる発表会&討論会。 ・ 発表を受け、山梨県において発生し得る災害について考える。 ・ 考えられる災害を整理し、その中から自らが疑問と考えた点を課題にする。 ・ 富士山科学研究所や国交省河川事務所など、県内で情報を得られる施設訪問。 ・ 全国で起きた災害と山梨県に起こり得る災害について比較する。 ・ 収集した情報を元に、課題に対する情報を精査し、まとめる。 ・ 学習発表会。 ・ 調べた内容を、どのように地域に還流し、防災意識の向上や災害対応に役立てていくのか考える。 <p>○青少年赤十字防災教育プログラム まもるいのちひろげるぼうさい</p> <p>【4-6年：活用できる教科・領域：社会、理科、体育、総合学習、特別活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害のことばの意味を考える。 ・ 災害への備えについて学び、災害に対しては、日頃の備えが大切であることを学習する。（家の中の危険に備える、家庭での備蓄をする、家族で事前に話し合う） ・ 災害への備えの重要性を理解する。 ・ 防災への意識を高め、普段から災害を想定した備えを行うことを確認する。 ・ ワークシートを持ち帰り、家族で話し合いをさせることで防災の意識を高める。
<p>その他</p>	<p>○総合的な学習の時間（探究の時間）における防災教育</p> <p>災害時における安全確保に必要な判断力・行動力の育成を実践を通して行う。また、地域の地理、自然の特性などの地域に関して教科等横断的に学ぶ中で、その意識を高めていく。</p> <p>○総合的な学習の時間における防災教育</p> <p>各教科・領域で身に付けた知識や技能等を関連付け、自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断できる実践的な力を高める。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や日本の地震災害調べ。 ・防災カルタづくり。
--	--

山梨県では、災害から考えるという題材で学習テーマが設定されている⁽¹³⁾。過去に起こった様々な災害から、自らが疑問と考えた点について課題を設定し、課題に対する情報を収集してまとめしていく。そして、全国で起きた災害と山梨県で起こり得る災害について比較するなど、山梨県で起こる災害についても考えるとしている。課題を設定し、課題に対して学習を進めていくという学習展開は、総合的な学習の時間の特質に応じた学習内容だといえる。

表 4：愛知県教育委員会の防災教育冊子の内容

都道府県	愛知県教育委員会
掲載媒体	平成 29 年 11 月「あいちの防災教育マニュアル」
指導内容	<p>○総合的な学習の時間の展開例</p> <p>展開例：避難訓練をより充実したものとするために。</p> <p>展開例：防災関係機関から講師を招き、グループワークにおける助言や講話の機会を設ける。</p> <p>展開例：避難所体験をしよう（防災キャンプ）</p> <p>展開例：災害図上訓練（DIG）をしよう。</p> <p>○展開例：守ろう命、地震に自信（追究・実践型）【6年】</p> <p>1 地震の怖さを知り、自分で命を守る意識をもたせる。</p> <p>（1）高台への避難訓練をする。</p> <p>（2）東日本大震災や阪神淡路大震災のビデオを見る。</p> <p>2 学区の危険箇所を調べ、状況を把握させる。</p> <p>（1）家の人と一緒に家の周りを調べる。</p> <p>（2）学区の防災地図を作る。</p> <p>（3）災害発生時のシミュレーションをする。</p> <p>3 家の安全について調べ、現状を見直させる。</p> <p>（1）愛知県や市町村等の事業を活用して、防災の専門家から話を聞く。</p> <p>（2）防災センター等に見学に行く。</p> <p>（3）家の中の安全について調べる。</p> <p>（4）我が家の防災袋について考える。</p> <p>4 地震について、もっと調べたいことを調べさせる。</p> <p>（1）同じテーマをもった仲間とグループを作り、追究する。</p>

	<p>5 学んだことを地域の人に発信させる。</p> <p>(1) 地域の人を招いて発表会をする。</p> <p>(2) 学区の人にも知らせるために、パンフレットを作り、配布する。</p> <p>○展開例：自然の驚異に備えよう（体験中心型）【5年】</p> <p>1 外部講師を招いたり調べ学習をしたりして、災害の実態や被害について知り、学習への関心を高めさせる。</p> <p>2 関心をもった災害について、消防署や地域の自主防災会等に協力を依頼し、避難に使えるロープワークや非常持ち出し品の重さ等についての体験学習を行い、防災実践力を高めさせる。</p> <p>3 自分の防災計画を見直したり、家の防災計画を立てたりする。</p> <p>4 学んだことを広く発信し、知識や技能を共有化する中で、自助・共助の意識を高めさせる。</p>
--	--

愛知県教育委員会では、避難訓練、防災関係機関の講師の方の助言や講話、避難所体験、災害図上訓練などの展開例が作成されている⁽¹⁴⁾。また、追究・実践型として、学区や家の中の危険について調べることで、体験中心型として、関心をもった災害について、体験学習を行い、防災実践力を高めるための学習が行われている⁽¹⁵⁾。追究・実践型では、学んだことを地域の人に発信するところまでを想定した学習内容となっている。体験中心型でも、学習の成果を広く発信するところまでを想定した学習内容となっており、地域との連携、つながりを考えた防災教育となっている。

表 5：岐阜県教育委員会の防災教育冊子の内容

都道府県	岐阜県教育委員会
掲載媒体	令和3年2月「体系的・系統的な防災教育」の充実に向けた指導資料
指導内容	<p>○総合的な学習の時間における「防災教育（例）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に起きた地域の地震災害を知る。 ・地震災害を経験された方の話を聞く。 ・自分たちの命を守るためにできることは何かを考える。 ・地域のどのようなところで地震災害は起こる可能性があるか、地域では地震災害に備えてどのような取組が行われているかを調査し、「命を守るための防災マニュアル」を作成する。 ・地域のハザードマップや現地視察を通して地震災害時の危険箇所を把握する。 ・防災マニュアルを作成するために必要な情報を収集する。（役場の防災担当者の話、

	<p>インターネットの活用、保護者等へのアンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設を利用して地震災害に関する理解を深める。(岐阜県広域防災センターの見学、VR 災害体験シュミレーター体験、地震体験装置による地震体験、防災備蓄館の見学、煙体験館) ・「命を守るための防災マニュアル」の作成に向けて、収集した情報を整理して分析する。 ・「命を守るための防災マニュアル」を作成し、保護者や地域の方に向けて発表する。 ・地域の防災訓練等に参加して、学習で学んでことを実践する。
--	---

岐阜県教育委員会では、防災マニュアルを作成するための学習が設定されている⁽¹⁶⁾。防災マニュアルの作成に向けて、現地視察、役場の防災担当者の話、インターネットの活用、保護者等へのアンケート、各種施設の見学や体験などの活動が行われている。総合的な学習の時間の特質に応じた学習として、どのような取組が行われているのか調査する、必要な情報を収集する、収集した情報を整理して分析するなどの学習方法が行われている。

表 6：大阪府教育委員会の防災教育冊子の内容

都道府県	大阪府教育委員会
掲載媒体	令和元年6月改訂・令和3年3月補訂「学校における防災教育の手引き 改訂2版」
指導内容	<p>○6年生の授業実践</p> <p>テーマ：「災害から命を守る みんなで考え実行できることを考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の地震災害について知る。ビデオ視聴。 ・地震のメカニズムについて知る。ビデオ視聴。 ・減災について考える。 ・応急手当、身近なものによる救急法。 ・災害図上訓練「親子で防災を考える日」 ・これまで学んだことをまとめ、発表する。 ・神戸、淡路島方面修学旅行。 ・避難訓練と震災集会。 ・地域を実際に歩く。 ・防災マップを作る。 ・児童会と連携して。 ・わがまち防災会議。

大阪府教育委員会では、過去の地震や地震のメカニズムについて学ぶ、応急手当、災害図上訓練、避難訓練と震災集会、防災マップの作成、防災会議など、様々な防災に関する学習が設定されている⁽¹⁷⁾。また、修学旅行、児童会との連携、防災会議など、防災教育を展開するための内容が設定されており、具体的な実践内容については、それぞれの実践者に委ねられているといえる。

表 7：和歌山県教育委員会の防災教育冊子の内容

都道府県	和歌山県教育委員会
掲載媒体	平成 25 年 3 月「防災教育指導の手引き」
指導内容	<p>○指導事例：タウンウォッチング（まち探検）【3年-6年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タウンウォッチング（まち探検）について理解する。 <p>学習課題「校区内の津波避難場所や危険箇所を把握しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タウンウォッチングを開始する。 ・次時の作業内容を知る。 <p>○指導事例：防災マップづくり【3年-6年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災マップづくりをすることについて知る。 <p>学習課題「様々な避難場所を把握しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち探検で使った地図をもとに、校区（地区別）の防災マップづくりを開始する。 ・それぞれの防災マップを見合い、情報を交流する。 ・津波避難 3 原則を知る。（想定にとらわれるな、状況下において最善を尽くせ、率先避難者たれ） <p>○広川町立広小学校の実践【5年】</p> <p>単元名：「立ち上がれ 災害から」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災について話し合う。 ・災害から命を守るためには、どうしたらよいかを考える。 ・家族会議を開く。 ・家族会議で話し合ったことを発表する。 ・広川町の防災対策について話を聞く。 ・避難所について考える。 ・自然教室で学びたいことを考える。 ・自然教室の計画を知る。 ・自然教室を振り返る。 ・災害から立ち上がるためには何が大切なのかを考える。（ウェビング図）

	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の課題を決める。 ・課題について、調べ追求する。 ・調べたことをまとめる。 ・発表し合う。 ・「自助、共助、公助」について考える。 ・広川町では災害から身を守り、立ち上がるためには、どんなことをしているのか。(自主防災組織について、社会の仕組みについて、避難所について) ・意見文を書く。 ・冊子にする。 ・地域に発信することについて考える。
--	--

和歌山県では、タウンウォッチング、防災マップづくりなどの学習が設定されている⁽¹⁸⁾。また、小学校の実践事例についても紹介しており、家族会議を開いたり、自然教室などをすること、地域の自主防災組織や社会の仕組み、避難所について学習したりする。個人の課題を決める、課題について調べ追求する、調べたことをまとめる、発表し合う、などの学習展開は、総合的な学習の時間の特質を取り入れたものとなっている。

表 8：兵庫県教育委員会の防災教育冊子の内容

都道府県	兵庫県教育委員会
掲載媒体	令和3年3月「防災教育カリキュラム作成の手引き～兵庫の防災教育はじめの一步～」
指導内容	<p>○防災教育年間指導計画例【3年】</p> <p>テーマ「地域のふしぎをさぐろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習計画立案。 ・町探検、気になる施設や建物調べ。 ・地域の自慢。 ・町で働く人々。 ・地域の自然や地形、地震や風水害発生時の危険。 ・地域の今と昔。 ・総合探究のまとめ。 <p>○防災教育年間指導計画例【4年】</p> <p>テーマ「わたしたちのまちはどんなところだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の地形の特徴、土地の利用、学校周辺の様子。 ・地域の人々のくらし、特産品、働く人々。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や学校の安全、防災上の工夫、取組。 ・地域の安全のためにできること、教訓や取組を引き継ぐには。 ・地域や自分の未来、総合探究のまとめ。 <p>○防災教育年間指導計画例【5年】</p> <p>テーマ「わたしたちの防災」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災上の課題。 ・過去の災害に学ぶ。 ・地域の防災意識を高めるために、意識調査、被災体験談聞き取り、地域の意識を高めるためにできること。 ・情報収集、整理、分析。 ・子ども防災会議の成果と課題分析、地域の方に減災方法等について発信、意見交流。 ・子ども防災会議の成果と課題分析。 ・課題解決に向けた取組、防災福祉マップ作り。 ・地域との交流、地域の方と防災福祉マップの検証、意見交流、地域へ防災福祉マップを発信。 ・防災福祉フェスティバル準備。 ・防災福祉フェスティバル開催、学習のまとめを地域へ発信。 <p>○防災教育年間指導計画例【6年】</p> <p>テーマ「災害から地域を守るために」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題設定。 ・地域の地形、災害との関係。 ・必要な防災力、被災時の集団生活。 ・被災時の食、日頃からできる準備。 ・他地域の防災、修学旅行先の安全。 ・地域の防災意識を高めるために、家庭地域の人々の意識調査、分析、地域の防災新聞作成。 ・総合探究のまとめ。
--	---

兵庫県教育委員会では、防災教育年間指導計画例の中で、総合的な学習の時間についての記載があり、3年生では、地域のふしぎをさぐる、4年生では、わたしたちのまちはどんなところだろう、5年生では、わたしたちの防災、6年生では、災害から地域をまもるためにというテーマが設定されている⁽¹⁹⁾。例えば5年生の内容では、意識調査、情報収集、整理、分析、意見交流、成果と課題分析、まとめと発信などの学習方法が行われており、総合的な学習の時間の特質

を取り入れている。

表 9：広島県教育委員会の防災教育冊子の内容

都道府県	広島県教育委員会
掲載媒体	平成 31 年 3 月「広島県自然災害に関する防災教育の手引き [別冊] -平成 30 年 7 月豪雨災害を踏まえた実践事例・資料集-
指導内容	<p>○教科横断的な実践及び総合的な学習の時間</p> <p>単元名：みんなでつなぐ「いのちの輪」～避難所生活について考えよう～【3・4年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害の映像や避難所の写真を見て本時の学習意図をつかむ。 <p>本時のめあて：みんなが使いやすく、生活しやすい避難所について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況設定を確認する。(地域に土砂災害警報が発表されている。天候は大雨。すでに町内で 10 か所以上、地域でも 3 か所の土砂崩れが起きている。道路は土砂によってうまってしまい、通れるようになる見込みがない。小学校体育館にも多くの地域の方が避難して来た。) ・グループで相談し合い、周囲の状況や学校にある使えるものなどの条件を確認しながらみんなが使いやすく、生活しやすいように避難者カードを配置したり、避難者のニーズに対応したりする。 ・各グループの配置結果を交流する。 ・振り返りカードを書き、全体のまとめをする。

広島県教育委員会では、避難所生活をテーマに学習を設定しており、「みんなが使いやすく、生活しやすい避難所について考えよう」という学習めあてに向けて、学習を展開している⁽²⁰⁾。また、具体的な状況を詳しく設定しており、その状況下で、学習めあてに向けてグループで相談し合う学習が行われている。状況設定を行い、学習めあてについてグループで相談していくという学習方法は、災害時の様々な場面において具体的に状況設定を行うことで、避難所生活以外のテーマでも応用できそうな学習だといえる。

表 10：山口県教育委員会の防災教育冊子の内容

都道府県	山口県教育委員会
掲載媒体	平成 24 年「防災教育ハンドブック 改訂版～「生きる力」を育む防災教育の推進～」
指導内容	<p>○学習指導要領における防災に係る主な指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害から身を守ろう。 ・我が家の防災点検。

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に知らせよう。 <p>○防災教育の実践事例【5年】</p> <p>取組名「防災センターを活用して学ぶ防災対策」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坊府市の土砂災害の実態を知り、防災意識を高める。 ・防災バックをつくろう～何を持って避難する？～ ・防災センターは、災害に対してどんな備えをしているか学ぼう。 ・防災バック発表会。 ・いろいろな防災バックを探そう。 ・災害に対する自分の心構えをつくろう。 <p>○総合的な学習の時間を活用した「防災教育プログラム」例【小中高】</p> <p>展開例：土砂災害から身を守ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇で起きた土砂災害についてくわしく調べよう」 ・「土砂災害はどうして起きたのか調べよう」 ・「自分たちの学校は大丈夫だろうか」 ・「学校にいた時に危険が迫ってきたらどうすればいいか」 ・「自分の家にいた時に危険が迫ってきたらどうすればいいか」 ・「地域の人たちに土砂災害の危険性と安全な行動について伝えよう」 <p>展開例：地震災害から身を守ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇で起きた地震についてくわしく調べよう」 ・「地震はどうして起きたのか調べよう」 ・「山口は地震の被害は少ないのだろうか」 ・「学校にいた時に地震が起きたらどうすればいいか」 ・「自分の家にいた時に地震が起きたらどうすればいいか」 ・「家の周りにいたときに地震が起きたらどうすればいいのか」 ・「地震が収まった後、どのように行動すればいいのか」 ・「地震発生時の地域の被害を少なくするために、自分でできることをしよう」

山口県教育委員会では、防災センターを活用した取組、防災教育プログラムとして、土砂災害から身を守るための学習、地震災害から身を守るための学習が展開されている⁽²¹⁾。土砂災害では、学校、自分の家にいたときの土砂災害への対応や、地域の人に土砂災害の危険性と安全な行動について伝えること、地震災害では、学校、自分の家、家の周りにいたときの地震への対応や、地震が収まった後の行動について学習をする。

V. 総合的な学習の時間における防災教育の特徴

総合的な学習の時間については、次のような目標を踏まえ、内容を定めるとされている⁽²²⁾。

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

山梨県は、こうした総合的な学習の時間の特質を踏まえ、総合的な学習の時間における防災教育のねらいを次のように設定している⁽²³⁾。

○総合的な学習の時間（探究の時間）における防災教育

・災害時における安全確保に必要な判断力・行動力の育成を実践を通して行う。また、地域の地理、自然の特性などの地域に関して教科等横断的に学ぶ中で、その意識を高めていく。

○総合的な学習の時間における防災教育

・各教科・領域で身に付けた知識や技能等を関連付け、自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断できる実践的な力を高める。

つまり、総合的な学習の時間における防災教育では、次のような資質・能力の育成を目指して行われている。

- ・災害時における安全確保に必要な判断力・行動力の育成。
- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断できる実践的な力を高める。

横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、防災に関する課題を見付けること、課題解決に向けて主体的に学習に取り組むこと、防災に関する学習を通して、災害時に必要な判断力・行動力の育成を目指していくこと、災害時に主体的に判断・行動できる実践力を高めていくことなど、総合的な学習の時間における防災教育で目指されているものが明らかになってくる。

また、総合的な学習の時間における防災教育の学習内容については、以下のような学習内容が設定されている。

表 11：総合的な学習の時間における防災教育の学習内容

避難所設営体験、防災学習センターの見学、災害図上訓練を行う、火山砂防見学会、防災マップづくり、津波発生時の様子（動画）視聴、津波の資料を見る、津波がきたときの避難方法、過去の災害の映像を見る、被災した方の話を聞く、過去の災害を知る、災害への備え（家の中
--

の危険に備える、家庭での備蓄をする、家族で事前に話し合う)、地域や日本の地震災害調べ、防災カルタづくり、防災関係機関の講師の方の助言や講話を聞く、避難所体験(防災キャンプ)、避難訓練、過去の災害のビデオを視聴する、学区の危険箇所調べ、家の中の安全について調べる、我が家の防災袋について考える、パンフレット作り、非常持ち出し品の重さ、防災マニュアルの作成、地震のメカニズム、応急手当、修学旅行、防災会議を開く、タウンウォッチング(まち探検)、家族会議を開く、防災福祉フェスティバルの開催、我が家の防災点検、防災バック、避難所生活について考える、防災バックを作る

このような学習内容が、学習展開の中で、どのような学習活動でなされているのかを検討すると、例えば、知る、調べる、考える、備える、活動する、発信するという学習活動で、学習内容を分類することができそうである。

表 12 : 防災教育の学習内容の分類

知る	過去の災害、津波発生時の様子(動画)、津波の資料、過去の災害の映像、防災学習センターの見学、被災した方の話、地震のメカニズム、防災関係機関の講師の方の助言や講話
調べる	地震災害調べ、学区の危険箇所調べ、家の中の安全調べ
考える	我が家の防災袋について考える、避難所生活について考える
備える	災害への備え(家の中の危険に備える、家庭での備蓄をする、家族で事前に話し合う)
活動する	防災マップづくり、防災カルタづくり、避難所体験(防災キャンプ)、避難訓練、学区の危険箇所調べ、防災マニュアルの作成、災害図上訓練、パンフレット作り、防災会議、家族会議、防災バックを作る
発信する	防災福祉フェスティバル

このような学習分類を参考にして、例えば、知る、調べる、活動する、発信するという順序で、学習テーマに合わせて学習をつなげていくことで、防災教育の実践事例の一つができる。学校現場でよく行われている防災マップ作りをテーマとして考えてみる。

知る：過去の地域の災害、被災した方のお話

調べる：学区の危険箇所調べ

活動する：防災マップづくり

発信する：学習した成果を地域の方に発信する

上記の学習展開で、防災教育に関する一つの授業実践ができあがる。こうした学習分類を参考

にして、他の学習テーマにおいても、どのような防災教育の展開が行えるのかを考えていきたい。

次に、学習方法について見てみる。学習方法については、次のような記載がある。

- ・ 班ごとに話し合う。
- ・ 互いに発表し合い、最終的に班の意見をまとめる。
- ・ 課題を設定し、設定した課題に対する情報収集。
- ・ 収集した情報を元に、課題に対する情報を精査し、まとめる。
- ・ 各グループによる発表会&討論会。
- ・ 地域ごとの災害を比較する。
- ・ 学習発表会。
- ・ 同じテーマをもった仲間とグループを作り、追究する。
- ・ 必要な情報を収集する。
- ・ 班ごとの情報を交流する。
- ・ 個人の課題を決める。
- ・ 課題について調べ、追究する。
- ・ 地域に発信することについて考える。
- ・ 情報収集、整理、分析。

総合的な学習の時間では、課題を設定し、設定した課題を解決するために学習を進めていくことが、一つの学習方法になるといえる。課題解決に向けては、情報を収集する、収集した情報を整理・分析する、班ごと、グループごとに活動して、班ごとの意見を交流するなどが行われている。学習のまとめでは、発表会や討論会を行って、地域に発信したり、意見をまとめたりしている。

防災に関する課題を見だし、課題解決のための情報を収集、整理して分析する。グループで活動をすることで、まとめた意見をグループごとに交流する。学習した成果を地域に発信して、地域社会とのつながりを図っていく。授業実践では、どのような課題を設定して、課題解決のために、どのような方法で追究をさせていくのかを考えていくことが重要なポイントになるだろう。

次に、学年ごとの学習テーマについてまとめてみる。

表 13：総合的な学習の時間における学年ごとの防災教育の学習内容

学年	学習テーマ
3 学年	避難所設営体験【北海道】雪がい・風水がいマップを作ろう【青森】 オリジナル防災マップをつくろう【秋田】 みんなでつなぐ「いのちの輪」～避難所生活について考えよう～【広島】 地域で過去に発生した災害等について調査する【滋賀】

	地域のふしぎをさぐる【兵庫】 地域の災害、防災体制等について課題を設定し、防災マップの作成等を通して、防災意識を高める【静岡】
4 学年	避難所設営体験【北海道】雪がい・風水がいマップを作ろう【青森】 みんなでつなぐ「いのちの輪」～避難所生活について考えよう～【広島】 地域で過去に発生した災害等について調査する【滋賀】 わたしたちのまちはどんなところだろう【兵庫】 地域の災害、防災体制等について課題を設定し、防災マップの作成等を通して、防災意識を高める【静岡】
5 学年	わたしたちの地域の自然災害【秋田】オリジナル防災マップをつくろう【神奈川】 地域の災害の歴史を調査し防災対策について探究する【滋賀】 わたしたちの防災【兵庫】 地域の災害の歴史を調査し、防災対策について学習する【静岡】
6 学年	わたしたちのくらしと火山【秋田】オリジナル防災マップをつくろう【神奈川】 地域の災害の歴史を調査し防災対策について探究する【滋賀】 災害から命を守る みんなで考え実行できることを考えよう【大阪府】 災害から地域を守るために【兵庫】 地域の災害の歴史を調査し、防災対策について学習する【静岡】
3 学年～6 学年	土砂災害から身を守ろう【山口】地震災害から身を守ろう【山口】 タウンウォッチング【和歌山】防災マップづくり【和歌山】

防災マップづくりについては、学年に関係なく行われていることが分かる。3・4 年生では、避難所設営体験、地域の災害調査、避難所生活について考える。5・6 年生では、地域の自然災害、地域の災害の歴史調査、災害の歴史調査などの学習テーマが設定されている。

これらのことから、今現在、どの学年で、どのような防災に関する学習テーマが行われているのかは、まだ厳密には決まっておらず、各学校や、各地域によって、学年ごとの防災教育に関する学習テーマが設定されているといえる。

VI. おわりに

本研究では、各教育委員会等で作成された防災教育冊子に掲載されている、総合的な学習の時間における小学校防災教育に関する記載を収集して分析することで、今現在の小学校で、総合的な学習の時間での防災教育がどのように行われているのかを明らかにし、その内容を把握する。そして、学年、単元名、指導内容、指導方法の観点から、総合的な学習の時間における小学校防

災教育の特徴を明らかにすることを目的に研究を行った。

収集資料として、47 都道府県と政令指定都市が作成した防災教育冊子を分析し、総合的な学習の時間での防災教育に関する記載について、学年、単元名、指導内容、指導方法の観点から分析をした。

収集して分析した結果、主に 10 ぐらいの都道府県で、各教育委員会作成の防災教育冊子に、総合的な学習の時間を想定した学習活動が記載されていることが分かった。実践事例というよりも、学習活動例や展開例などの形で記載されたものがほとんどであり、総合的な学習の時間での防災教育は、学習展開の参考としていくものが大半であった。学習内容では、様々な防災教育に関する内容が設定されており、統一的な学習内容というよりも、各教育委員会によって、地域の実情に応じた特色ある学習内容が想定されているといえる。

また、知る、調べる、考える、備える、活動する、発信するという学習活動で、防災教育に関する学習内容を分類してみたところ、例えば、知るでは、過去の災害、調べるでは、地震災害調べ、備えるでは、災害への備え、活動するでは、防災マップづくりなど、防災教育の学習内容は、学習活動ごとに分類しやすいことが分かった。また、学習展開としても、知る、調べる、活動する、発信するという順序で、学習テーマに合わせて学習をつなげていくことで、防災教育の実践事例の一つができあがることが分かった。

学習方法では、課題設定、情報収集、課題分析、情報の整理・分析など、総合的な学習の時間の特質に応じた学習方法が行われていることが分かった。どのような課題設定をして、課題解決に向けてどのように追及をさせていくのかを考えるなど、実践者が設定する学習テーマが重要になってくるであろう。さらに、総合的な学習の時間における学年ごとの防災教育の内容は、各都道府県で厳密には設定されておらず、各学校や、各地域によって、学年ごとに、防災教育に関する学習テーマを設定していることが分かった。

総合的な学習の時間での防災教育では、学習活動例や展開例などの形で示されているものが多いことが分かった。実践を通して、検証していく取り組みがこれから求められるだろう。

総合的な学習の時間以外の各教科等でも、学習指導要領の記載から、防災教育に関連する記述が示されたり、学習活動例や展開例が作成されたりしている。学校の教育活動全体を通じた防災教育の実現に向けて、本研究で明らかになった知見を基に、教科横断的な防災教育の展開に向けて研究を継続していきたい。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省 (2013) 『学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開』
- 2) 同上 1) P.8
- 3) 同上 1) P.6

- 4) 同上 1) P.8
- 5) 同上 1) P.8
- 6) 同上 1) P.13
- 7) 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的な学習の時間編』
p.11
- 8) 同上 7) p.11
- 9) 同上 7) p.21
- 10) 北海道教育委員会 (2020) 『1 日防災学校 実践事例～実践的な防災教育の推進～』
- 11) 北海道教育委員会 HP (2021 最終更新日) 『防災教育実践事例集』
www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/bosai_jirei.html (閲覧 2021.9.20)
- 12) 青森県教育委員会 (2012) 『学校における防災教育指導資料』
- 13) 山梨県教育委員会 (2021) 『山梨県学校防災指針』
- 14) 愛知県教育委員会 (2017) 『あいちの防災教育マニュアル』
- 15) 同上 14)
- 16) 岐阜県教育委員会 (2021) 『「体系的・系統的な防災教育」の充実に向けた指導資料』
- 17) 大阪府教育委員会 (2019 改訂・2021 補訂) 『学校における防災教育の手引き 改訂 2 版』
- 18) 和歌山県教育委員会 (2013) 『防災教育指導の手引き』
- 19) 兵庫県教育委員会 (2021) 『防災教育カリキュラム作成の手引き～兵庫の防災教育ははじめの一步～』
- 20) 広島県教育委員会 (2019) 『広島県自然災害に関する防災教育の手引き [別冊] ー平成 30 年 7 月豪雨災害を踏まえた実践事例・資料集ー』
- 21) 山口県教育委員会 (2012) 『防災教育ハンドブック 改訂版～「生きる力」を育む防災教育の推進～』
- 22) 同上 7) pp.8-22
- 23) 同上 13)